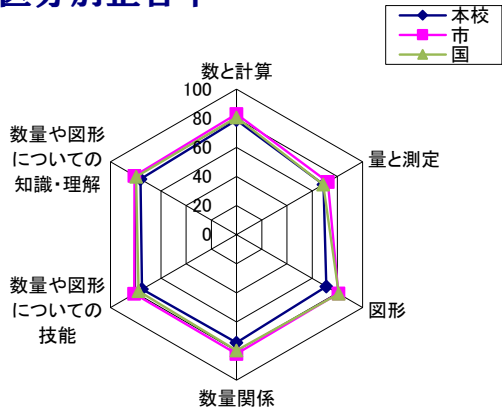


宇都宮市立富士見小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

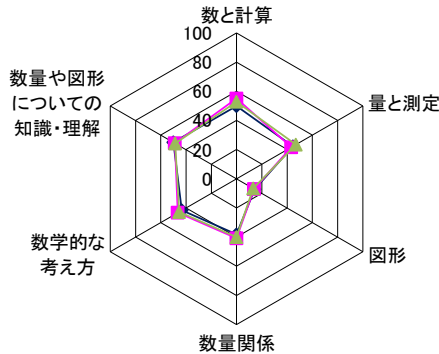
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	78.7	82.9	80.6
	量と測定	68.9	72.5	68.8
	図形	71.2	80.8	81.1
	数量関係	74.2	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	75.0	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	76.2	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.9	55.1	52.8
	量と測定	44.6	43.4	47.0
	図形	14.4	13.8	13.2
	数量関係	38.1	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	43.3	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	50.0	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●算数Aの平均正答率は78.7%であり、国の正答率を1.9ポイント下回った。 ○整数の乗法の計算や商を分数で表す問題はよくできていた。 ●算数Bの平均正答率は49.9%であり、国の正答率を2.9ポイント下回った。 ●二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題では国の正答率を8.0ポイント下回った。	・小数と整数の加法については、計算の結果を見積もる習慣を身に付けさせ、位をそろえて計算することを意識づける。 ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算では、計算のきまりをその都度確認し、定着を図る。 ・問題場面の二つの数量の関係を数直線や図に表し、それと関連付けながら式や言葉を用いて一般化して表現する活動を意識的に設けることにより、計算の意味と計算の仕方を理解できるようにする。
量と測定	○算数Aの平均正答率は68.9%であり、国の正答率を0.1ポイント上回った。 ○平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ問題では、国の正答率を0.6ポイント上回った。 ●算数Bの平均正答率は44.6%であり、国の正答率を2.4ポイント下回った。 ○飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ問題では、国の正答率を6.9ポイント上回った。	・図形の面積については、単に公式を覚えるだけでなく、既習事項を活用してその公式を導き出す過程を大切に指導する。 ・測定値の平均については、仮の平均の考え方を活用することで、平均を工夫して処理できるようにすることを理解させる。 ・授業の中でお互いの考えを発表する際には、自分の考えとの相違に注目したり、その考え方のよさに気付いたりできるように指導する。
図形	●算数Aの平均正答率は71.2%であり、国の正答率を9.9ポイント下回った。 ●円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く問題では、国の正答率を11.5ポイント下回った。 ○算数Bの平均正答率は14.4%であり、国の正答率を1.2ポイント上回った。 ○身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題では、国の正答率を1.2ポイント上回った。	・円を用いて正多角形をかくことについては、作図活動を通して、正多角形は合同な二等辺三角形で構成できるという性質や内角と中心角の違いについて理解させる。 ・直方体や立方体の面の位置関係については、具体物を用いた立体図形の構成活動を通して、向かい合う面が平行であることや隣り合う面が垂直であることを確認する。具体物の面に記号をつけて立体を開く活動を通して、展開図と見取り図を関連付けながら理解できるようにする。
数量関係	●算数Aの平均正答率は74.2%であり、国の正答率を5.4ポイント下回った。 ●二次元表の合計欄に入る数を求める問題では、国の正答率を8.7ポイント下回った。 ●算数Bの平均正答率は38.1%であり、国の正答率を1.9ポイント下回った。 ○最小の満月の直径の図に対して、最大の満月の直径の割合を正しく表している図形を選ぶ問題では、国の正答率を4.4ポイント上回った。	・資料の整理については、資料を二つの観点に着目して分類整理する二次元表の仕組みを理解させる。また、表に示された数値が適切なものであるかどうかを確認する方法の一つが「合計」の数値に着目することであることを再度確認する。